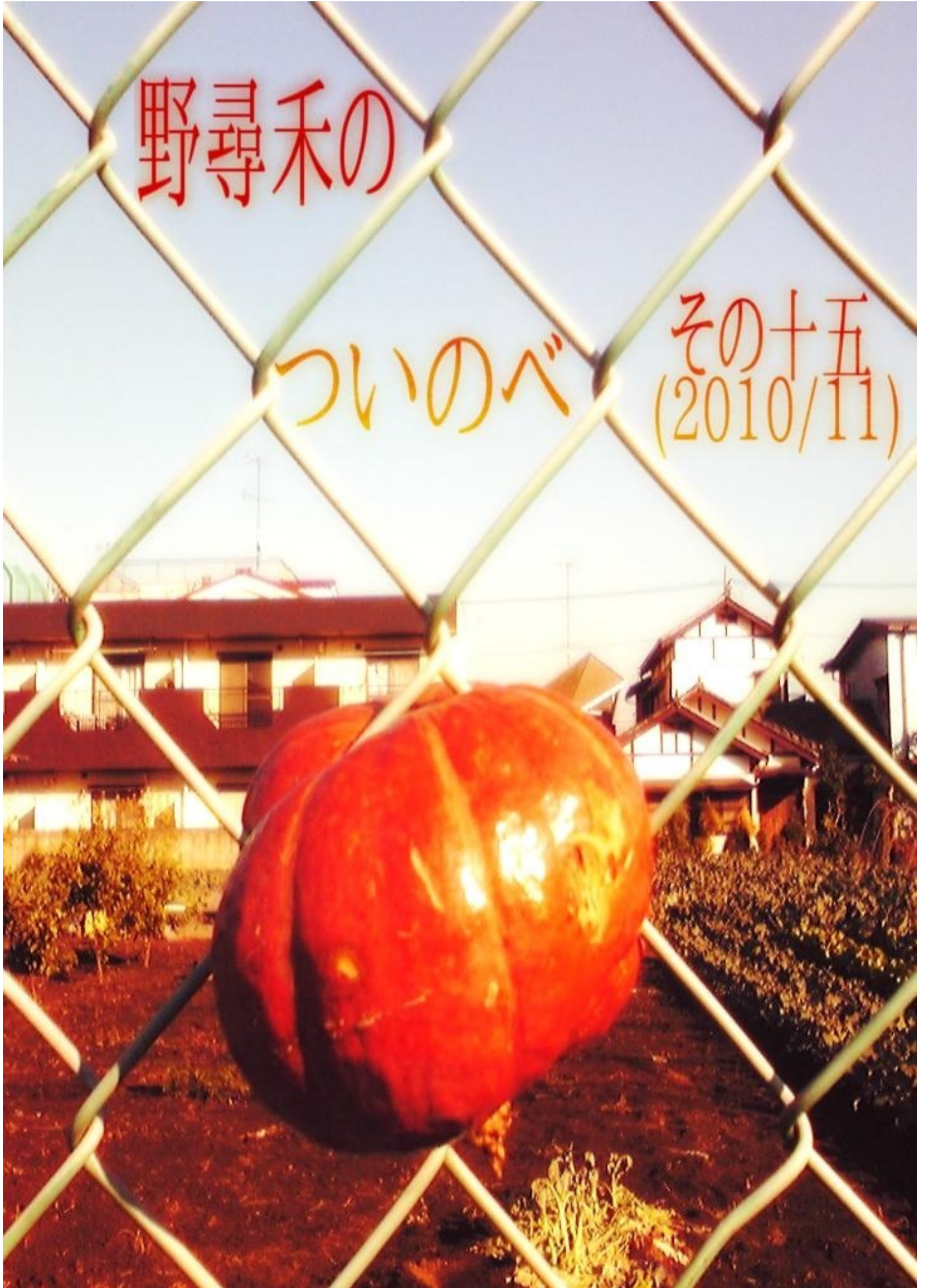


野尋禾の

ついのべ

その十五  
(2010/11)



## まえがき

”野尋禾のついのべ その十五 (2010/11)”です。

十一月のついのべは、三十本ありません。

一日一本のラインを越えたことになります。

ついに、ここまで来た——という思いです。

思えば、これまでの私は、ついのべの奴隷でした。

二十四時間、寝ても覚めても、ついのべのことばかり考えていました。

何を見ても、ついのべのねたにできないか、と考えました。

あぶくのように湧いてきたアイデアを逃すまい、とまめにメモをとりました。

より効果的な語り口を求めて、荒野をさまよいました。

荒野では悪魔の誘惑に屈しかけました。

悪魔は言いました。

「百四十文字で小説なんか書けないのさ」

私は言い返しました。

「百四十文字じゃない。百三十一文字、もしくはそれ以下だ」

「それじゃあ、まだ書くつもりなのか？」

「当然だ」

「世界の王にしてやろう、と言ってるんだぜ」

「私にとって、世界の王は、王貞治だけだ」

「わかった。おまえは王の器じゃない。あばよ」

悪魔は去り、私はついのべを書き続けました。

まさに、ガレー船の奴隷のように。

しかし、その姿勢は正しいのか？

サイズ・ダズ・マターは正しいのか？

否——正しいわけがない。

このままでは、作品の質が落ちる。

といって、書かなければいいというものでもない。

意識せずに、自然に本数が落ちてゆくのにまかせよう。

そう思いました。

そして、ついに、一日一本以下に落ちたのです。

これは、後退かもしれません。

しかし、衰退ではないのです。

そう信じています。

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

本コンテンツに収録された作品はフィクションです。

実在する人物、団体名などは便宜上、用いたものです。

実在する人物、団体になんら影響の及ぶものではありません。

ご了承ください。

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohi ronogi／佐々木秀博に帰属します。

2011/04/13

HP : [http://www.geocities.jp/nohiro\\_nogi/](http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/)

mail : [nohironogi@gmail.com](mailto:nohironogi@gmail.com)

Twitter : @nohironogi

日に日に、妻がふくよかになる。

表情も和らぎ、僕は、結婚してよかった、と考えている。

目が合うと、妻も同じことを考えていることがわかる。

「名前、どうしよう」

「あたし、もう決めてるの。男なら、えるに一によ。女なら、らに一にや」

……初めて、この結婚が失敗だった気がした。

2010/11/03 (Wed)21:08:57

死力を尽くして、勝ち取った日本一。

疲れきっているはずなのに、はしゃぎまわる選手たち。

ファンの中には泣き顔もある――

と、そのとき、グラウンドに一団の男たちが乱入してきた。

見慣れない、そろいのユニフォーム。

「おめでとう！ だが、祝賀会は、我々を倒してからにしまえ」

2010/11/06 (Sat)09:25:16

ここは、人類最後の砦。

理不尽な魔族に、理路整然と科学で立ち向かう人類戦線の最前線。

最前線ゆえ、常に兵員の補給が行われる。

「新入り、おまえ、ネクロマンサーなんだって？」

「違います。上官どの！」

「口応えするか！」

「じ、自分は、猫浪漫さん、と呼ばれているのであります」

2010/11/06 (Sat)19:06:48

渋谷駅前。

デモ行進取材に来たTVクルーは、首をひねった。

プラカードも行進も見つからない。

ディレクターが主催者に電話した。

「どうなってんの？」

「言ってなかった？ ARデモなんだ」

慌てて、スマートフォンで交差点を見る。

誰もが、頭からプラカードを生やして抗議していた。

2010/11/06 (Sat)20:04:59

国際情勢は、緊張の度合いを高めています。

特に隣国との関係は悪化し、一触即発の局面を迎えている。

この国家的危機に際して、増税、国債の緊急追加発行は、やむを得ない。

私は、しばらく香港で国際会議に出席しますが、お国のためです。

そのあと、マカオに寄るのもお国のためです。

2010/11/06 (Sat)20:59:47



汚された大地の怒りは、大地の恵みをもって示すべきだ。

主に小麦粉と植物油でつくられた、わがしもべども――

貴様らこそ、現代社会の欺瞞を糾弾する資格を持つものどもだ。

さあ、ゆけ、この世界を回している気になっているやつらに鉄槌を下すのだ！

千百十一億本のポッキー軍団よ！

2010/11/11 (Thu)22:22:39

#twnovel

コードネーム0BSN——国内最強の工作員。

厳戒体制の横浜——警官が、彼女に声をかけた。

「おばさん、なじよしたのす？」

「この先のスーパーのタイムセールに行くの。早くしないと、終わっちゃうよ」

「ああそう、気をつけでネ」

「あんたもね」

数分後、国際会議場は炎に包まれた。

2010/11/13 (Sat)17:18:40

#twnovel

コードネーム” over-sun” ——全米最強の работник。

厳戒体制のワシントンD.C——警官が彼女に声をかけた。

「おばさん、何してるの？」

「おまわりさん。ホワイトハウスはどこ？」

「ほら、あれだよ」

「あら、ほんと」

「良い旅を」

数分後、大統領の愛犬が、泡を吹いて倒れた。

2010/11/13 (Sat)18:04:56

大統領に恨みはない。

むしろ、人間的魅力を認めている。

だが、あの国は許せない。

あの国は私からすべてを奪った。

ハンバーガーは、ルックスと健康を奪い、ディズニーは妻子の心を奪った。

復讐するは我にあり。

「大統領、抹茶アイスをどうぞ！」

さあ、悶絶しろ！

ワサビ特盛アイスだ！

2010/11/14 (Sun)00:07:40

\*毎月十四日は、” ついのべの日” 。  
今月のお題は、” 霜” 。

#twnovel

#twnvday

巨人を見た。

闇が溶けてゆく、薄明の空を覆うかのごとき、巨大なヒトガタ。

この季節、この時間にだけ見えるのだ、と農夫だった祖父が言っていた。

巨人はいつもいるのだが、見るができない、とも。

身体についた霜を地上に落とす、この季節、この時間にしか――

2010/11/14 (Sun)

#twnovel

#twnvday

学校に行かなくなった頃は、まだ昼には起きられた。

その後、部屋すら出られなくなると、僕は地球の裏側の住民になっていた。

そんなとき、こんなツイートを讀んだ——” 朝焼けで霜が輝いてるなう”。

見てみたい、と思った。

その瞬間が、ターニングポイントだった。

2010/11/14 (Sun)18:16:40

#twnovel

#twnvday

転石苔を生ぜず――

崖を転がり落ちる石のように、活動し続けていれば、苔を生やすように老けこむことはない。

望むと望まざるとに関わらず、忙しい日々を送ってきた。

苔なんて生えるわけがない。

まだまだ、いけてるぜ……あれ、窓に映ってるの、俺？

髪に霜が……

2010/11/14 (Sun)20:57:52

#twnovel

#twnvday

近所に、古い空家があった。

庭木と雑草に埋もれていた。

大正の名残があり、往時を偲ばせた。

いつか手をいれてレストランにでも、と夢想したりもした。

が、ある朝、その夢は費えた。

突然、崩壊したのだ。

二センチほどの霜柱が、家を持ち上げ、落としたのだという。

2010/11/14 (Sun)21:58:49



#twnovel

#twnvday

機体は霜で覆われていた。

航行機関が熱を失って、どれだけたつのか。

乗員の姿はない。

通信にも応答はない——同様の失踪事件が多発している。

どこへ消えたというのか。

この、アンモニアと水の氷原のどこへ。

ここは、タイタン——ゆきかぜ以来、呪われた氷の衛星。

2010/11/14 (Sun)22:22:35

#twnovel

#twnvday

今朝の冷え込みなら、きっと――まだ暗い戸外を窺う。

今こそ、この一年の成果を試すとき！

霜柱の上へ片足をおろす。

もう片足をあげる。

霜柱は壊れない。

そのまま演武に移る。

霜柱は壊れなかった。

「師父、やりました！」

「あ？ わしゃまだ眠い。また来年……」

2010/11/14 (Sun)22:57:13

妻が、結婚指輪をしていない。

気づいたのは、三日前。

いつからなのか――まさか、結婚式直後から？

もしそうなら、十年以上……悩んだすえに、聞いてみた。

「掃除機に吸われたみたいで、見つからないの」

「そうだったのかあ」

「あなたは、どうしたの？」

「え？」

俺、指輪してない。

2010/11/17 (Wed)13:59:20

「死ぬほど好きなんです！」

「わかれましょう」

「本当に、死ぬほど好きなんです！」

「なおさら、いけないわ」

「どうしてですか？」

「あなたのことは好きよ。でも、死んじゃ駄目」

「あ、えーと、生き返るほど好きです！」

「そう、もう死んでいたのね。成仏してね。な一む一」

ち一ん。

2010/11/17 (Wed)14:44:06

「はい……電車内は公的な空間ですから、ルールがありますね。たとえば、暴力行為はいけません。痴漢などの性的いやがらせもそう。飲酒や喫煙なども。でも、携帯電話は、いいんじゃないかなあ……ええ、今も電車内です。平気ですよ」

(歴史的事故発生数秒前の運転手の通話記録より)

2010/11/17 (Wed)20:42:39

#twnovel

影踏みは楽しい。

楽しすぎて、やめられない。

友達の影が逃げる。

追いかける。

別の友達が追ってくる。

逃げる。

楽しい——いつのまにか陽が落ちた。

気がつくと、見覚えのない街角。

友達が追ってくる。

友達が逃げる——もう顔も見わけられない。

影が逃げる。

影が追う。

みんな影になる。

2010/11/20 (Sat)18:52:47

一枚のカードの表裏の面積が違う——ありえない。

しかし、そんなものが、たった今、完成して、目の前にある。

「博士！ 凄いです」

「つまらん発明さ」

「あれ、カードが動いて……」

「裏表で気圧差が発生したのさ」

「あ、飛んでゆく……」

「さらばだ」

カードは、窓から大空へ消えた。

2010/11/20 (Sat)20:32:56

拘留期限は残り少ない。

容疑者は黙秘を続けている。

昔ならともかく、荒っぽいまねもできない。

刑事たちの顔に焦りが見えた……ついに、取り調べ室に切り札がやってきた。

そのつぶらな瞳を見た瞬間、容疑者は号泣した。

「お、俺がやりました！」

人呼んで、落としの神——チワワ刑事。

2010/11/22 (Mon) 19:36:51



間に合うだろうか――父の場合、投与のタイミングが遅かった。

寡黙なたちで、気づかなかつたのだ。

もの忘れ、被害妄想、鬱――確実に脳は蝕まれていた。

家族も傷ついた。

今、ナノマシンが父の脳を修復している。

私は治療の成功を祈っている。

帰ってきた父を、受け入れられることを。

2010/11/28 (Sun)21:05:30